



写真提供：丘の森写真研究会 岡村國次

副看護部長挨拶

副看護部長・病院医療安全管理者 坂内 広恵

4月より副看護部長及び病院医療安全管理者を拝命いたしました。

今年も7月を迎えましたが1年の半分を新型コロナウイルスの脅威にさらされ、暗い気持ちになることが多かったような気がします。

そして2020年はナイチンゲール生誕200年の記念すべき年です。緊急事態宣言の最中、5月に看護週間を迎えました。ナイチンゲールは看護だけではなく、環境・衛生の大切さを訴え、科学的な視点から病院の改革に取り組みました。偶然とはいえCOVID-19が流行したことで、医療者は病院環境や公衆衛生のため力を尽くさなければならないことを再認識いたしました。

さて、私が担当している医療安全ですが、当院の理念である「良質で心温まる医療の提供」は、安全なくしては成り立ちません。当院では今年度より医療安全管理体制が強化されました。多職種連携、地域連携の強みを生かし、安全に関わる問題についてスピード感をもって対応していきたいと考えます。安全は医療に携わる全ての職種、そして、医療を受けられる皆様と一緒に築き上げていくものです。地域の皆様のご意見を取り入れ、安心できる病院づくりに取り組んでいきます。今後ともよろしく願いいたします。



集団感染を起こす疥癬について

集団感染という昨今では、新型コロナですが、皮膚疾患で集団感染を起こす病気が、ヒゼンダニの寄生による疥癬になります。ヒゼンダニは、大きさが0.4mm程度で、指紋の一つ幅ほどです。皮膚の角質層の物資をエサにします。

症状は、1) 夜間にかゆみが強くなる、2) 手を中心に、全身に散在する紅色性丘疹、結節が見られる、3) ステロイド外用が無効などの特徴あります。

感染経路は、通常は、長時間の肌と肌がふれ合う接触感染や同じ布団で寝たりすると感染します。角質が厚く、フケが多いときは、ヒゼンダニが多くいる「角化型疥癬」になります。短時間の接触でも感染し、衣類やシーツからも感染し、集団発生を生じます。角化型疥癬は、免疫力が低下している方、高齢者がなりやすいです。このため、老人施設などで

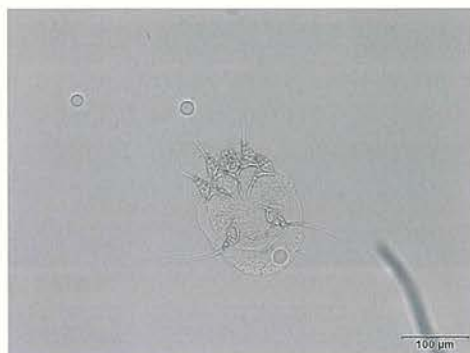
疥癬の集団感染が生じやすくなります。もし、施設内などで、患者が発生したときに医療従事者の二次感染を防ぐ、最も大事な予防策が、これも新型コロナ同様に介護後、すぐに手洗いです。

疥癬は主に治療薬が二つあります。塗り薬と飲み薬があり、どちらも1週間に1回で、2回行います。飲み薬は、いま、新型コロナに有効性を期待されるイベルメクチンです。

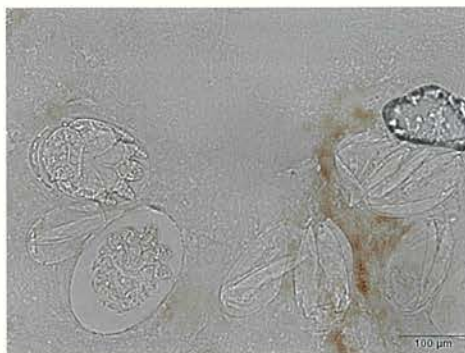
疥癬は、現在、撲滅できる疾患ではありません。施設などで集団発生を生じたからといって誹謗、中傷することなく、新型コロナ同様に、寛容な気持ちでご理解いただければと思います。

記事担当

皮膚科部長 高橋 利幸



ヒゼンダニ



医療用麻薬について

2人に1人ががんになる時代、病院でも麻薬の処方が増えてきています。病院で使用するのは、いわゆる不正麻薬ではなく「医療用麻薬」といい有効性・安全性が確認され国に承認を受けたお薬です。麻薬と聞くと、覚せい剤、大麻、危険ドラッグなどニュースに出てくるような違法なもの、やめられない薬などといったイメージがあり、病院で処方されると抵抗感を抱く人も少なくありません。病院で処方される「医療用麻薬」は、がんによる痛みを中心に、下痢止め、咳止め、慢性的な痛みなどにも使用されています。

よく誤解されますが「医療用麻薬」は適正に使用すれば中毒にはならないことが証明されています。また、薬のせいで寿命が短くなることもありませんし、最後の手段でも決してありません。現在は早期に痛みを取る治療が大切となってきており、痛みのない状態が睡眠、食欲、体力面、そして免疫細胞にもよく体の抵抗力を高めるといわれています。

日本人は痛みを我慢する人が多いといわれています。痛みには我慢することなく遠慮なく申し出てください。

記事担当

薬剤部長 佐藤 宏

手術室

当院の手術室は、外科系診療科13科の手術すべてに対応しております。
手術室は10部屋と、結石破碎専用1部屋の11部屋あります。予定手術は、診療科ごとに1週間ずつ予定を組みます。また、追加や緊急手術には随時対応しております。

スタッフは、麻酔科医5名、看護師33名、看護助手7名で対応し、年間5400件余の手術に対応しております。

関連部門として、中央滅菌室の業務も担っております。

近年、診療科によっては、小さな傷で体にかかる負担も少なく、術後早期に動けるようになる鏡視下手術も積極的に行われており、入院期間の短縮にも繋がっています。

どんな小さな手術であったとしても、患者様にとっては重要な1ページであり、不安や心配を持たれて手術室に来られます。そんな思いをスタッフ一同マスクの下の優しい笑顔で、少しでも癒されるよう心がけています。

私達は、手術の中心は患者さんであることを忘れずに、手術中に言葉を発することができない患者さんの代弁者として、患者さんの権利を守り、そして、手術を受けられた方々が、笑顔でそれぞれの場所へ戻って行かれる姿を思いながら、日々取り組んでおります。

記事担当：手術室師長 杉本紋子



栄養科
ワンポイント
コーナー

旬の野菜を食べよう ～夏野菜のカ～



暑い季節がやってきました。暑い夏には夏野菜がおすすめです。夏はトマト、きゅうり、なすなどの野菜がおいしい季節です。家庭で育てている方も多いのではないのでしょうか。

現在ではハウス栽培もあり様々な野菜が一年を通して食べることができますが、同じ野菜でも「旬」に採れる野菜の方が栄養もたくさん。旬の野菜には、その時期に体が必要とする栄養素を多く含んでいます。夏に旬を迎える夏野菜は汗で失われやすい水分やミネラル、カリウムなどが豊富に含まれており、体を冷やす働きもあります。夏野菜を食べて、暑い夏を乗り切りましょう。

代表的な夏野菜の種類と特徴

- トマト…β-カロテン、ビタミンC・Eを含み、血液を健康にして動脈硬化やがん、老化防止に効果的。
- なす…皮の部分に含まれるアントシアニンは、強い抗酸化作用がある。
- きゅうり…青臭さのもとピラジンは血液サラサラ効果。
- トウモロコシ…食物繊維、ビタミンが豊富に含まれ、疲労回復や便秘解消に効果的。
- オクラ…ねばねば成分に整腸作用があり、疲れ気味の胃腸を保護。



記事担当：栄養科 須藤郁恵

病院からのお知らせ

✓ 5月10日～5月16日は看護週間



フローレンス・ナイチンゲール

今年ではフローレンス・ナイチンゲールの生誕200年です。

「クリミアの天使」と呼ばれたナイチンゲールですが、その実像は献身的な看護だけではなく、統計を活かして医療衛生の改革を行い、近代看護の医療の開拓者でもあります。生誕200年の今年、新型コロナウイルスの流行により、図らずともナイチンゲールが訴えた「環境」「衛生」の重要性を認識することになりました。

厚生連長岡中央総合病院の看護部理念は、「私だったら、私の家族だったら どんな看護を受けたいかを考えて 看護を提供する」です。患者様、患者様を大切に思う皆様のため、そして地域の皆様の健康を守り、看護に取り組んでまいります。

当院のナイチンゲール達です



看護部長室の皆様



患者サポートの看護師の皆様

✓ 外来受診時の「3密状態」緩和にご協力をお願いします

コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策のため、患者様にはご不便をおかけしております。感染防止対策は今後も継続が必要と考えています。

外来受診でお待ち頂いている際に「3密状態」が生じやすくなっており、当院としても待合場所の拡大などの対策を実施しています。

そこで、患者様におかれましても3密状態を避けるため、

- ・採血等のある方は予約時間の1時間位前
- ・そうでない方は30分位前

を目途にご来院していただけますよう、ご協力をお願いいたします。

外来での採血室が大変混雑しており、患者様には、大変ご迷惑をおかけしております。この度、**化学療法室で、点滴治療を受けられる患者様の採血については、外来化学療法センターでの採血を行うことになりました。**診察の1時間前くらいに来院をしていただくとありがたいです。

なお、化学療法ではなく診察前に採血がある患者様は、**診察日前**に採血を受けて頂くことができます。ご希望の方は、主治医または、外来看護師にお申し出ください。

手指消毒薬不足にて、病院来院者の多くの方々に、ご迷惑をおかけしております。石鹸での手洗いにご協力ください。